



▲湯山の里にはデラックスホテルなみの総合センターも建設されている



▶生善院観音堂、通称「猫寺」

▼市房茶の産地でもある



わが町 わが村

〈水上村〉

縄文時代には豪族が住んでいたという本村は、宮崎県推葉村や五家荘に接し、春にはつくしあけぼの、冬には樹氷で知られる市房山（標高一、七二二メートル）がそびえ、その里には市房ダム、湯山温泉、球磨川上流の溪谷美、史跡などがあります。夏のキャンプや「ヤマメ」釣りなどに最適地です。

▶水上村のシンボル「市房ダム」「猪鍋」料理もすばらしい



▲乗艦「観光丸」



▲鎮道寺正門

勝海舟と鎮道寺（苓北町）

蒸気の御船にのりて再び爰に旅寂をしかね たのまれぬ世をば
経れどもちぎりあれば再びここに月を見るかな

安政三年

勝義邦

これは天草は富岡にある浄土真宗向陽山鎮道寺の御堂の柱に勝海舟が書いたものです。現在は、明白には読みとれませんが、海舟の雄姿が偲ばれます。海舟は彼の乗艦「観光丸」で、安政三年の五月と九月の二回ここを訪れたようです。また、別の柱には「日本海軍指揮 勝 麟太郎」とも記されています。この寺を訪れ、無言の柱と対面していると、海舟が柱の影から顔を出して語りかけるような錯覚を覚えます。また、明治二十五年四月消印の徳富蘇峰の即興詩もあり、史実によれば、蘇峰も海舟の影響下にあったといえますし、意外にも身近かに海舟や蘇峰を感じて彼等と同時代に生きているような気持ちになります。



▲勝伯真筆（鎮道寺蔵）

▼富岡での休息時、海舟が歌を書いた柱

